



(近江八幡)

光相寺遺跡は、滋賀県下最大の河川である野洲川の右岸下流域に位置する、飛鳥時代～奈良時代を中心とする遺跡である。その立地は、現況の水田耕土下二m余りにある埋没微高地上にあつて、遺跡はその中央を北東方向に流れる埋没旧河道の兩岸に沿うように広がるように、住居にはあまり適さない低湿な所に所在する。なお、本遺跡を貫流する埋没旧河道の五〇〇m余

滋賀・光相寺遺跡

- 1 所在地 滋賀県野洲郡中主町大字吉地・西河原
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)二月～一九八八年一月
- 3 発掘機関 中主町教育委員会
- 4 調査担当者 辻 広志
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 飛鳥時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

り下流左岸には、同時代に同様の立地に営まれた西河原森ノ内遺跡が所在している。今回の第八次調査第三遺構面では、七世紀中葉～八世紀前半を中心とする遺構が検出された。このうち木簡は、総柱の小規模な南北棟(三間×二間)と方位を同じくする、西側前面の幅〇・三m余りの素掘溝より(1)が、東側の幅三m以上の素掘溝より(2)と、釈読できない二点が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・× 迹文□□□□

・× □□□□□□

(210)×29×8 011

(2) ・「田物□□□□」

・「馬道□□□□」

(120)×29×5 019

(1)は、木簡の上端を二次的に切断したもので、表裏共に文字間をあけて書かれているのが特徴であるが、墨痕が薄く判読できない。(2)の「馬道□□□□」は、西河原森ノ内遺跡一号木簡にみられた「馬道首」「馬道」と同様の氏姓か、または「馬道郷」の郷名との関係が想起されるが、文字の遺存状態が悪く、いずれとも決めがたい。

(辻 広志)